

FOR
HIS
KING-
DOM

2026年5月
創立80周年記念信徒大会

創立
80周年
記念
宣言

神の国を今ここに

日本キリスト改革派教会

はじめに

「ただ、神の国を求めなさい」(ルカ12:31)。
これが、主イエスのご命令です。「神の国」こそが、私たちの希望です。なぜなら、死に打ち勝たれた王である主イエス・キリストの「神の国」の勝利の約束こそが、永遠の命の望み、限りない勇気と励まし、尽きない力の源だからです。

「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」(ルカ12:32)。

日本キリスト改革派教会は、「創立宣言」によって「有神的人生観・世界観」と「信仰告白と教会政治と善き生活とをそなえた一つの見える教会」という二つの主張をもって歩み出しました。人生と世界のあらゆる領域に生きて働いておられる神に仕え、神の救いの恵みにふさわしい教会を建て上げることは、変わる事のない私たちの使命です。

しかし創立から80年を経た今日、たび重なる自然災害や戦争などによって混沌とする世界に、神の働きを見いだすことは容易ではありません。教会もまたコロナ・ウィルス禍を経て、教勢の減少をはじめとした多くの問題にあえいでいます。そうした中で、様々な世代や信仰的背景を持つ者が集う私たちの教会では、教派的アイデンティティーが改めて問われています。

そのような状況から新たに力強く歩み出すために、ここに「80周年宣言」を言い表します。

この宣言によって私たちは、日本キリスト改革派教会とはどのような教会であり、何を為す教会であるのかを、「神の国」というヴィジョンによって語ります。それは、私たち日本キリスト改革派教会が、自らの中に残る罪と戦い、さらに新たにされていくための挑戦でもあります。

「神の国を今ここに」。私たちは、民族、国境、言語の壁をはるかに超えて、終わりの日に力強く実現する広く大きな「神の国」を望み見ます。そして私たちは今、すべての国々のすべての世代の人々と共に、「FOR HIS KINGDOM: すべてを神の国のために」と告白し、この信仰に生きます。

闇のようなこの世界に、輝く明けの明星、主イエス・キリストによる「神の国」が到来しました。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と主は語られ、その到来を御言葉と御業を通してお示しになり、使徒たちもそれを引き継いで、「神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストについて教え続け」ました。それゆえ私たちは、どんなに困難な状況の中でもこの希望から目をそらさず、「御国が来ますように」と祈りつつ、「神の日の来るのを待ち望み、また、それが来るのを早める」べく、終わりの時に完成を迎える「神の国」をこの地に実現するという教会の使命に向かって、前進し続けます。

I. 「神の国」と全世界

「神の国が世界に満ちる！」

「主は地上をすべて治める王となられる」(ゼカリヤ14:9)。終わりの日に、「神の国」は大きく世界を満たします。その時には、「狼は小羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。…乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、幼子は蝮の巣に手を入れる。…水が海を覆っているように、大地は主を知る知識で満たされる」(イザヤ11:6-9)。すべてを平和が支配し、主を知る知識と神への感謝が満ちるといふ、言い尽くせない祝福と共に実現するのが「神の国」です。

「神の国」は、神によって建て上げられる、神の愛に満ちた国です。そこには、この世の国々に勝る価値観と文化があります。「神の国」では、この世の国では疎外されてしまうような弱く小さい者、心の貧しい者、悲しむ者が、神から幸いと力と平和を得て、命を受け継ぎ、祝福の担い手とされます。後の者が先にされ、低い者が高くあげられ、敵意という隔ての壁が打ち壊され、対立ではなく和解が、暴力ではなく平和が力を帯び、あらゆる国民、言葉の違う民が神の救いを賛美します。またそこでは罪人が憐れみを受けることができ、神から遠く離れたところにいる者こそが、神の熱情の愛の対象として探し出され、引き戻されて、すべての孤独は共にいてくださる神によって癒されます。人生の

最後に待ち受ける死さえも、約束された永遠の命への入り口として用いられ、祝福と完全なきよさをもたらします。この世界は、「新しい天と新しい地」として現れる神の王国の到来へと向かい、その訪れを待ち望んでいるのです。

I- (1) 「神の国」と平和

「神の国の平和を造り出そう！」

「神の国」は、世界に平和をもたらします。今も戦火にあえぎ苦しむこの世界は、対立ではなく和解を、暴力ではなく愛の力が支配することを、何より必要としています。80年前、戦争への悔い改めをもって歩みを始めた私たちの教会にとって、平和の実現は大切な使命です。私たちはこれからも、罪責を告白し、かつての戦争が今なおもたらしている問題に目を向け、痛みをもって絶えず自らの罪を悔い改め、世界に平和を実現します。

聖書が教える平和とは、何よりも主イエスキリストにおいて実現した神との和解であり、そこからもたらされるあらゆる祝福に満ちた状態です。主にある平和を知る私たちは、教会内外に存在する暴力や弱者と少数者に対する差別に反対し、争いの絶えないこの地に「神の国」の平和を造り出します。

1- (2) 「神の国」とディアコニア

「神の国を世界に取り戻そう！」

神は極めて良かった天地創造の世界を、教会の枠組みを超えて回復されます。私たちは、主イエス・キリストの福音を語ることと共に、愛をもって仕える実践的な奉仕の業（ディアコニア）を重視し、終わりの日に、正義と平和を伴って完成する「神の国」の実現に向けて積極的に奉仕します。なぜなら救いとは、心の中の問題にとどまらず、具体的な生活や社会にまで及ぶものであり、それは世界を「神の国」に近づけ、神の御心に適う世界へと変えていく力でもあるからです。

この世界の弱い立場に身を置き仕えることは、自ら低くなられたキリストに倣う教会の本質であり、その働きは、すべての人と協力してなされるものです。私たちは、災害や不公正によって痛みを負い、失望に囚われた人々の只中に立ちます。

ディアコニアは神への奉仕の業であり、復活の主イエス・キリストが打ち建てられる「神の愛の国」を、広く世界に回復させる働きなのです。

1- (3) 「神の国」と宣教

「神の国を宣べ伝えよう！」

「神の国」は、神の国の到来を宣べ伝える福音宣教によって実現します。その広がりや、教派や国境の枠を超えます。私たちは世界から日本への宣教の働きに感謝しつつ、共同教会のひとつの枝として、海外宣教へのチャレンジもたゆまず続け、「神の国」の広がりを体現します。

日本社会における伝道は困難を極めます。しかし私たちは、「神の国」を力強く証しし、王なる神の恵みの支配のもとに人々を招くために伝道します。伝道の動機は、教会の自己保存ではありません。神の永遠の選びが、私たちに伝道へと突き動かす熱意と力の源であり、伝道が無駄には終わらず必ず実を結ぶという確信の根拠です。ただ神の恵みによって、私たちが神の民の一員とされたように、いまだ神との出会いを知らない選びの民は、やがて一人も漏れることなく神の救いへと集められます。この神の永遠の選びゆえに、私たちは、一人一人の尊い魂の救いのために、決して諦めることなく伝道します。神の選びの尊さを知る私たちは、福音を伝えるべき人との出会いを、大きな喜びと共に受け取ります。福音宣教を通して、私たちは、「神の国」の広がりやに用いられる光栄と祝

福にあずかるのです。

私たちは、丁寧な教理教育をもって求道者を導くという「教育的伝道」に取り組んできました。きめ細かな牧会的配慮と人格的な関係を重んじつつ伝道する「牧会的宣教」も一層重要となっています。私たちは、伝道についてのこれらのヴィジョンを継承すると共に、教会の外に広く目を向けて積極的に出て行き、世とのあらゆる接点を探り求めます。しかし同時に、この世に吞まれてしまうのではなく、この世を超えた「神の国」を宣べ伝え証しする教会として、私たちは全世界の祝福の源となることを願い求めます。

II. 「神の国」と教会

「神の国が教会に現れる！」

主イエス・キリストの体なる教会は、この世における「神の国」の中心的な現れであり、その希望の担い手です。「信仰告白と教会政治と善き生活とをそなえた一つの見える教会」を、私たちは創立のヴィジョンとして掲げました。主イエス・キリストの贖いと聖霊の導きにより、時代と場所を超えた神の希望の民として回復させられた私たちは、改革派教会をこの地に建て上げることを通して、今ここに「神の国」をもたらしてくださる神のみわざに応えます。

II-1 (1) 「神の国」と善き生活

「神の国の交わりに生きよう！」

創立宣言が語る善き生活とは、私たちそれぞれが倫理的正しさや徳の向上に励むという個人的な信仰生活にとどまらない、主にある交わりの中で、互いに愛し合い仕え合う生き方です。

他者を競争相手と見て、自分の利益のために「自分の国」を築こうとするエゴイズムがはびこる時代に、私たちは生きています。本来自分に死んでキリストに生きるべき教会も、ともすればその自己中心主義に陥ってしまいます。私

たちは、他者を裁き、交わりの中に律法主義を持ち込んでしまう罪が、教会の中にもあったことを悔い改めます。そして、あらゆる領域においてイエス・キリストを何よりも高くかけて主と仰ぐ、神中心の世界観と人生観をもって神に献身し、神の民としての善き生活を今こそ取り戻し、神の御前に生きることによって、狭く偏った自己中心主義を乗り越えます。

神への献身は、自分のための人生なのか、あるいは神のために生きるのかという二者択一を超えて、両者をひとつに結び付けます。ただ「神の国」を求め生きる時にこそ、私たちの人生は豊かな自由と幸いを得て輝くのです。私たちが共に神のために生き、愛なる「神の国」に献身していくことで、生き生きとした力と喜びに溢れた善き生活が、私たちの間に豊かにかたちづくられてゆくのです。

II- (2) 「神の国」と教会政治

「神の国を映し出す教会になろう！」

「神の国」を教会に映し出すために、聖書から引き出された教会政治制度が、長老主義政治です。それは、人ではなく、かしらなる主イエス・キリストの御意志が行きわたるように、権威

を一人に集中させず、独断ではなく会議によって合意を形成し、聖書に基づく教会規程をもって教会の秩序を築く教会政治です。

会議による合意形成とは、少数者の意見を重んじるということです。この視点を大切にすると私たちは、力に乗じた不平等と嫌がらせ（ハラメント）に反対します。そして一人一人の意見や個性を尊重し、個々の違いを、問題や対立としてではなく豊かさとして受け取り、神が教会に与えてくださる多様性と一致を育みます。キリストの体なる教会にさらに近づくために、私たちは、長老主義政治を通して、教会のすべての営みの主語に主イエス・キリストを置く教会の実現を追求します。

特に私たちは、中会を形成する諸教会をひとつの教会と捉え、その交わりの中で互いに成長し、「神の国」の輪を広げてゆきます。中会は枝々である各個教会を支える大きな幹です。さらに中会は大会の枠組みの中で互いに親しく交わり、共に働くことで、「神の国」の広がり豊かさにあずかります。この大・中会の良き交わりによって互いに育み合いながら、私たちはこれからも、長老主義政治をよりよく用いて、「神の国」をこの地に映し出す教会となります。

II- (3) 「神の国」と信仰告白

「神の国を神学しよう！」

神学に励むことは、私たちの使命であり喜びです。「神の国」は、教会の手で神学的に掘り下げられることによって、その姿を鮮やかに示します。特に私たちは、ウェストミンスター信仰規準を教会憲法として採用する信条教会として、歴史的改革派諸信条に表された改革派神学に軸足を置き、その伝統を受け継ぎます。そして、新信条の作成というヴィジョンのもと、これからも常に新しい言葉をもって信仰を告白し続けます。

私たちは、聖書の権威を重んじ、その歴史性も踏まえながら、旧新約聖書全体の教えを深く理解していきます。特に主イエス・キリストの福音を、教会を「神の国」へと向かわせる使信として受け取り、御言葉によって絶えず改革され続けます。そして、改革派神学に堅く立ちつつ、他の神学的伝統や諸学問とも対話しながら、福音的な豊かさや広がりを持つ「神の国」の神学に取り組んでいきます。

II- (4) 「神の国」と礼拝

「神の国の栄光をたたえよう！」

礼拝は私たちにとっての力です。礼拝において、私たちは神の栄光をたたえ、永遠に神を喜び、「神の国」を体験します。コロナ・ウィルス禍を通して、教会は礼拝によってこそ生きるということ、私たちは痛みを伴いつつ知りました。苦難や乏しさ、疲れや無力感にさいなまれる時にこそ、私たちは礼拝者として堅く立ちます。「神の国」は、私たちがささげる礼拝の中で、最も力強く立ち現れるからです。

教会の根源的な力である礼拝の中心に位置するのは説教です。教会は、どんな人にも届き伝わる言葉によって、「神の国」を語らなければなりません。説教を通して、神は人生と歴史を導く大いなる計画と深い愛を示してください。教会は、「神の国」を聖書から深く掘り下げ、説教することによってその到来を創造的に描き出します。そして私たちは、心からの喜びをもって説教に聞き従い、「神の国」を生きる教会へとますます導かれてゆきます。

洗礼と聖餐の礼典を通して、私たちは「神の国」に触れ、その恵みにリアリティーをもってあずかります。洗礼は、罪赦され救われて、「神の国」にふさわしい者として招かれたことの確かなしるしです。そして聖餐は、「神の国」で主イエスと囲む幸いな食卓の先取りです。私

私たちは共に集い、ひとつのパンを互いに分け合い、主イエス・キリストの十字架の愛と復活の永遠の命を豊かに味わいます。さらに聖餐のぶどう酒は、私たちの将来に必ずもたらされる「神の国」の勝利の先取りであり、希望に溢れた祝杯としての意味を持ちます。

私たちは、共に「神の国」を歌い奏でます。賛美は、私たちの存在のすべてをもって「神の国」の豊かさをたたえる、神への心からの捧げものです。私たちは、様々な文化や世代や背景を持つ一人一人が、皆で共に心からの賛美をささげることのできる礼拝を目指します。

これからもますます私たちは、礼拝全体を通して躍動する「神の国」をこの世界に力強く描き出し、証しして、神の栄光を今ここでたたえる教会となります。

祈り

「神の国のために祈ろう！」

神よ、今願います。あなたの御国を今ここに来たらせてください。

神よ、耳を傾けて聞いてください。世界の荒廃と、キリストの名で呼ばれる教会の苦しみをご覧ください。かつて先人たちが、創立の志を表した時のように、今私たちの前にも困難な現

実、魂の荒れ野が広がっています。しかし世界の希望は、勝利の王なる、復活の主イエス・キリストにあります。主イエス・キリストを十字架の死からよみがえらせたあなたは、残された切り株から、再び命を芽生えさせてください。その再生の物語が、聖書が語る私たちの物語です。

この戦争と災害と分断の世界の只中に、命と平和に満ちた「神の国」が打ち建てられるために、どうか主よ、私たちがささげる一切を用いてください。私たちの礼拝を、神学を、教会のあらゆるはたらきを用いて、「神の国」を建て上げてください。私たちではなく、ただあなたの栄光がとこしえにあがめられますように。あなたの深い憐れみによって、あなたが始められた大きな救いの御計画が完成しますように。

主イエス・キリストが再臨されるその時に言葉を絶した祝福が満ちる世界を夢見て、私たちは旅を続けます。その時は、今まさに来ようとしています。私たちの教会を、永遠の「神の国」への扉としてください。

私たちはいつも目を覚まして「神の国」の実現にお仕えし、私たちの間にある「神の国」を育みつつ前進します。次の10年の歩みに希望を与え、100周年とさらにその先の未来の教会を励ます力として、この宣言を告白します。

FOR HIS KINGDOM !

神の国を今ここに！